

一般社団法人 山梨県理学療法士会会報誌

SUPPORTERS

サポーターズ

No.147 2016 春号

一般社団法人

山梨県理学療法士会ホームページ <http://ypta.jp/>

会員数 794 名

施設数 123 (3月1日現在)

●第19回山梨県理学療法士会学術集会 シンポジウム



●スポーツPT部 研修会



Contents

特集「第19回山梨県理学療法士会学術集会」報告… 2～3

- 学術集会を終えて (演題発表者報告)
- 「世界が変わる？」 (演題発表者報告)

各部活動報告… 4～5

- 生涯学習部
- スポーツPT部

お知らせ… 5・7

- スポーツPT部
- 事務管理局

原稿募集… 5

リレーエッセイ Part 29… 6

編集後記… 7

「supporters (サポーターズ)」とは・・・

我々理学療法士が社会に寄与していく職種であることを思い、「支える人」という意味の supporter に複数形の s を加え、supporters : 支える人たち (造語) の意味です。



「第19回山梨県理学療法士会学術集会」報告

山梨県理学療法士会学術局学術集会部長
山梨リハビリテーション病院 菊池 信

- 日 時 2016年1月17日(日)
- 場 所 桃源文化会館
- 特別講演 「中枢神経疾患患者の移動に対する臨床推論」

山梨リハビリテーション病院 理学療法士 伊藤克浩先生

去る2016年1月17日(日)に第19回山梨県理学療法士会学術集会が桃源文化会館にて開催されました。今年度の参加者は143名(会員139名、非会員4名)でした。今大会の特別講演は「中枢神経疾患患者の移動に対する臨床推論」をテーマに山梨リハビリテーション病院の伊藤克浩先生をお招きしてご講演いただきました。中枢神経疾患患者の示す現症についての神経科学を基盤とした明瞭なリーズニングや具体例の提示からみた介入の実際など、臨床家としての知識・技術は勿論のこと、心構えなどもお話され、大変勉強になったことと思います。

午後からは一般演題発表とシンポジウムが行われました。今年は関プロ学会が9月に開催されたこともあり、例年よりも少ない12演題となりましたが、どれも興味深い内容であり、さらに発展的に継続調査を進めていただきたいものばかりであったと思われまます。発表された皆様お疲れ様でした。

また県内学会では初の試みとなるシンポジウムが行われました。今回は時期別のリハビリテーションマネジメントということで、急性期・回復期・維持期のそれぞれの時期におけるリハマネジメントの紹介と意見交換がされました。参加者アンケートからは、「もっと時間を増やして詳細を聞きたい」などといった意見が聞かれていました。新たな学会プログラムとして今後も取り入れていければと思います。

最後に、次年度は第20回記念大会となります。充実した内容を準備して参りますので、皆さんで活気ある学会となるよう盛り上げて行ければと思います。



学術集会を終えて

竜王リハビリテーション病院 齊藤 彰太

今回、私が学術集会でHALを題材として発表するきっかけとなったのは、元々、先進技術に興味があったことと、県の委託事業で当院にHALが3ヶ月間導入されたことで実際に利用者様に使用し、どのような成果が生まれるのかを検証できる機会を得たことでした。しかし、私にとって、初めてロボットに手を触れて、実際にそれをリハビリの一部として、より良い形で利用者様に提供していくことの不安や難しさを実感し、正直、発表することよりも目の前のHALを使用する事で精一杯でした。その中でも、他の職員の協力や利用者様にもご協力頂き、3ヶ月の期間で成果が感じられたため、学術集会という場で発表することが出来ました。今回は、演者という立場で参加させて頂きましたが、学術集会という場で発表することで、リハビリの成果という情報を共有でき、リハビリの手段や考え方の幅が更に広がったと実感しました。今後も先進技術に目を向け、リハビリとしての成果を検証し、このような場で皆様に報告できたらと思います。最後に、今回発表に際して、ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

「世界が変わる？」

石和温泉病院 原田 智史

発表をしようと思ったきっかけは、「目の前の自分の世界を変えたい」という気持ちからでした。右も左も分からないPTの世界に飛びこみはや13年・・・無我夢中で歩んできました。学会発表自体は、おそらく10年ぶり・・・。

その頃の私たちは、学会発表が新人教育プログラム修了の最終関門であったため、当時の私も僭越ながら全国学会にて発表させて頂きました。当時の私は、発表すること自体に意味があり、内容は二の次だったことを今でも鮮明に覚えています。(笑)

年齢と経験を重ねた今、発表をしようと思い立ったのは、日々新人や若いスタッフと関わる中で、自分の考えていること、行っていることは自分の中だけにとどめておいてはいけない、周りに伝えるべきだと考えるようになったからです。そして、発表後に変化するであろう私の世界に、どのような未来が待っているのか、どのように自分自身が成長できるのかを期待したからでした。

学会は、自分自身を成長させる機会としてとても有意義なものだと考えます。今回の学会でも学術局及び学術集会部を担われている山梨リハビリテーション病院のスタッフを中心とした方々が企画・運営から演題発表まで大車輪の活躍をしてきていました。そのおかげで、私自身も学会を機に自己研鑽を積むことができました。今後も学会がより多くの若い士会員の方々にとって自己研鑽の場となっていくよう、我々士会員みんなで盛り上げていきたいなあと思います。

発表を終えた今、冒頭の「世界が変わったか・・・」と問われれば、思い描いていた変化は特に得られず・・・いまは肩の荷がおりて、ただただ気持ちがラクになっただけなのかもしれません・・・。(笑)

さて、今後の変化に淡い期待を抱きつつ、今日も診療に向かいます！

各部 活動報告

学術局 生涯学習部発

□ 新人教育プログラム活動報告 II

平成27年8月24日、県立青少年センターにて新人教育プログラムが開催されました。

今回、講師として甲州リハビリテーション病院の磯野賢先生、健康科学大学の三科貴博先生にご講義をして頂きました。磯野先生には自らが属する学術、職能団体である日本理学療法士協会の設置目的及びその構造と機能について理解を深め、専門職として生涯学習の必要性について講義して頂きました。



三科先生には理学療法士として、組織・職場・患者様との人間関係、必要な接遇、労働衛生上の問題点・各種ハラスメントについて講義して頂きました。

今回の講義で、理学療法士協会の一員として一人一人が職能を高め、理学療法士の地位を確立していかなければいけないことを知り、生涯学習の重要性を強く感じました。理学療法士として学び続けていくためにも、組織・職場・患者様との関係を、より良く築くことが必要と改めて実感しました。そのために接遇や労働衛生上の問題点、ハラスメントにも目を向け、もっと理解を深めていきたいです。

山梨リハビリテーション病院 川合優輝

●問い合わせ先：学術局生涯学習部 笠井雄太
(山梨リハビリテーション病院理学療法課内 TEL 0553-26-3030)

社会局 スポーツPT部発



□ ラグビー新規参入 都留興譲館高校ラグビー部報告

ツル虎ノ門外科・リハビリテーション病院 平井郁弥

スポーツ部では、今年度より都留興譲館高校ラグビー部に介入するようになり、私もその一員として帯同させて頂いています。同ラグビー部は山梨県内でも優勝争いを繰り広げている強豪校です。スポーツ部員として3年が過ぎましたが、まだまだコンディショニングや障害・外傷に対応するには不安もあります。それでも、共に帯同している先輩方や定期勉強会で助言を頂きながら、大きなやりがいを感じて介入させて頂いています。ラグビーは激しいコンタクトのあるスポーツで怪我をしやすい状況ではありますが、私ができるケアやアドバイス、また怪我をしないフィジカルをつくるという事にも目を向けながら、選手にとって最高のコンディションで試合に臨んで貰えるよう頑張りたいと思います。できれば「五郎丸」のような代表選手がここから育ってもらえるように…。



□ スポーツPT部研修会報告



国立甲府病院 吉井 諒

2015年12月1日、8日の二日間「アスリートの腰部障害に対する評価と対処法」というテーマで成田崇矢先生にご講義頂きました。スポーツに限らず臨床現場においても腰部障害は頻繁に遭遇し、パフォーマンスやADLに直結する重要な課題の一つです。講義の中でまずは腰痛の病態を正確に把握することの重要性を述べられていました。画像所見など器質的な病変が明確でなければ痛みの原因の特定は難しいと思ひ込み曖昧にしておりましたが、しっかりと機能解剖を理解した上で丁寧に評価することで椎間板性、椎間関節性、筋筋膜性、仙腸関節性などある程度はつきり病態が特定できることを学ばせて頂きました。また、その詳細な方法や治療方法も実技を交え教えて頂き、特に機能的腰部障害に対する評価・運動療法のデモではその場で痛みが軽減し、その重要性を実感できました。臨床やスポーツ現場で使える内容ばかりで大変勉強になり、さっそく現場でも取り入れていこうと思っています。



●問い合わせ先：社会局スポーツPT部 小尾伸二

(山梨大学医学部附属病院リハビリテーション部内 TEL 055-273-9805)



スポーツ理学療法部員募集

年齢・経験・性別など一切不問です。
士会員であればどなたでも参加できます！

山梨県士会では、スポーツ理学療法部員としてスポーツ現場で活動していただける方を常時募集しています。この分野に興味をお持ちの先生方のご参加をお待ちしています。

◇活動内容：○スポーツ大会における理学療法サービスの提供

国際テニス大会、高校野球大会などに参加しています。

○チームに帯同しての理学療法サービスの提供

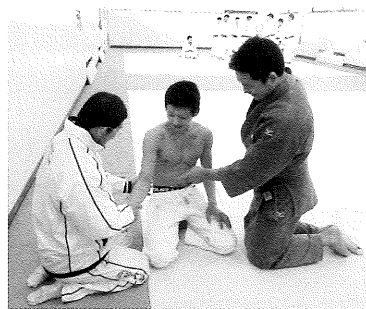
現在は、中学・高校・大学のサッカー、高校の男女バレーボール、柔道、卓球、ラグビー、大学の野球、テニスのチームにかかわっています。

○スポーツ理学療法に関する講演や教育活動

◇研修日：毎月第1・3火曜日 19:00～(おおむね2時間)

◇連絡先：山梨大学医学部附属病院リハビリテーション部 小尾伸二

TEL 055(273)9805 FAX 055(273)8372 E-mail sobi@yamanashi.ac.jp



原稿を募集しています

会報部では会員の声を少しでも多く取り入れたいと考えております。テーマ等は自由です。

1. 研修会・勉強会等の開催案内・報告内容など

2. 各種お知らせ事項など 3. 体験記など 4. その他

●問い合わせ先：広報局 会報部 菊池 悟

一宮温泉病院 いちのみや訪問看護ステーション

TEL 0553-20-5255 E-mail:kikuchisatoru560905@yahoo.co.jp



内容の規定はありませんが、個人・団体等の中傷あるいはこれに準ずるものは不可。

※第148号発行は、9月を予定しています。

原稿の締め切りは、

7月下旬です。

リレーエッセイ

～途絶えることのない
バトンを君に～

「リレーエッセイ」とは・・・

士会員を対象に、身近な出来事・お国自慢・今はまっていること・病院紹介など、何でもよい(ただし、誹謗や中傷の内容は除外します)ので400字程度で執筆していただき掲載していく企画です。

以前のSupportersにあった「会員のひろば」との違いは、会員同士の輪を広げること、執筆された方が次の執筆者を決めて、紹介していただくという点です。無理やり書いていただくわけではなく、執筆者同士の繋がりを大切にしていきたいと考えていますので、依頼を受けた方は快く執筆していただけたらと思います。

Part 29-1

「茶色の朝」

甲府共立病院 原 啓太

みなさんこんにちは甲府共立病院の向 真史さんからバトンを頂きました。
同じく甲府共立病院の原 啓太です。

今日は皆さんに一つの寓話を紹介したいと思います。タイトルは「茶色の朝」ものの30分あれば完読出来るボリュームですが内容は非常に濃いものだと思います。一見すると現実にはありえなさそうな事が綴られています。しかしその実この話の中でおきている事はスケールの大小は別として色々な場面で起きうる事だと思いました。「世界」「国」「自治体」「会社」「病院」「学校」「チーム」「家庭」「個人」どのようなカテゴリーでも想定するべき事象であると感じました・・・。内容についてはここでは触れませんが、自身を、自身の行動を見直すきっかけになる話であると思い、この場を借りて皆さんに紹介したいと思います。「茶色の朝」は1998年にフランスのフランク・パブロフさんが出版したものです。著作権は放棄されており、インターネットで原文を読むことが出来ます。興味のある方は是非ご一読下さい。損はないと思いますので・・・。

次回は、『湯村温泉病院 木村 良先生』です。宜しくお願い致します。

Part 29-2

笹本整形外科 杉山 弘樹

皆様、初めまして。笹本整形外科の杉山弘樹です。

早いもので、理学療法士になってから1年が経過しようとしています。

去年の今頃は国家試験勉強を大学の仲間と一緒にしていたことを思い出します。4月からは笹本整形外科に勤務し、毎日発見の繰り返しです。患者さんからも数多くのことを学ばせて頂いています。実際の臨床現場では機能ばかり追ってしまい、病態の理解をしながらの治療は難しく、知識不足も痛感しています。笹本整形外科には、大学時代お世話になった健康科学大学の成田崇矢先生、石黒友康先生が非常勤として来て頂いており、臨床現場で直接指導して頂いています。病院の仕事以外にも、大学での文献抄読会や研究、河口湖の子供を対象とした陸上教室、山梨クイーンビーズのトレーナー活動、アクティブライフマネージメントのスタッフとして勉強会の運営、成田先生のトレーナー活動の帯同、飛込みジュニア合宿参加と様々な活動をさせて頂いています。

今は、とても幸せな環境で仕事をさせて頂いています。今後はさらに病態の理解を深め、患者さんや選手の方になれるように努力していきたいです。感謝の気持ちと謙虚な気持ちを忘れずにこれからも成長していきたいと思っています。



成田研究室忘年会にて

次回は、『石和共立病院 保坂 陽先生』です。よろしくお願いします。



事務管理局より

慶弔申請の窓口は事務管理局です

■詳しくは、士会ホームページの「お問い合わせ」より、「会員慶事通知フォーム」「会員弔事通知フォーム」をご使用ください。

入会申請について

新人職員の皆様、入会申請はお済みでしょうか？もし協会からの刊行物が届いていない場合、入会手続きがなされていない可能性があります。是非、ご確認ください。

財務部より

会費納入ご協力ありがとうございます。

会費未納の会員の方々にお知らせ申し上げます。再度、確認のご連絡をさせていただく場合がございます。予めご了承ください。

休会規定について

■休会期間は1年単位となります。(4月1日から翌年3月31日)

年度途中の休会も終期は3月31日となります。

■休会満了までに、復会・休会継続(更新)・退会の手続きが必要です。

満了時までには手続きがない場合は、規定により退会となります。再度入会を希望する場合は、入会手続き及び入会金が必要となり、新人教育プログラムの再履修が必要となります。

尚、「休会継続」の手続き受付期間は、1月1日～3月31日とさせていただきます。

■休会中に改姓・連絡先の自宅住所が変更になった場合は、マイページより異動申請にてお手続きください。

■休会中の研修会等への参加資格はなくなります。

*インターネットからの手続きができない場合は、日本理学療法士協会へご連絡ください。

メールでの情報発信について、ご意見をお聞かせください

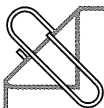
今後の県士会事務作業に関わる経費削減案として、各局から発信される案内文書などをメール発信で行うことが検討されています。つきましては、この件に関するご意見などございましたら下記の間合せ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

●お問い合わせ先：事務管理局 yamanashi.pt.jimu@gmail.com

編集後記

木々の芽吹きに春を感じるこの頃ですが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。年度末となり慌ただしい時期ではございますが、本年度最終号の会報誌を無事にお届けすることができました。本号では、1月に開催されました、学術集会を特集として掲載致しました。思わぬ花冷えにお風邪など召されませんようくれぐれもご自愛ください。

菊池 悟



- 発行 ● 一般社団法人 山梨県理学療法士会
- 代表 ● 小林 伸一
- 企画・校正 ● 菊池 悟 水上 卓 岩間 拓也 上野 貴史
- 編集・印刷 ● 有限会社 ナカガワ
- 会報部 ● 〒405-0077 山梨県笛吹市一宮町坪井 1754
いちのみや訪問看護ステーション TEL 0553-20-5255 / FAX 0553-20-5256
一宮温泉病院 TEL 0553-47-3131 / FAX 0553-47-3434
E-mail: kikuchisatoru560905@yahoo.co.jp